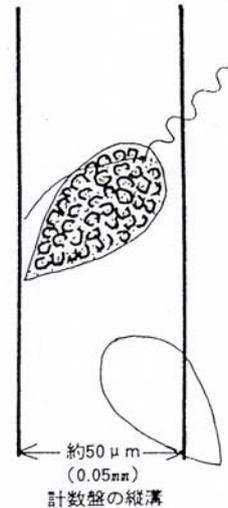


2 シャットネラ マリーナ

【最重要種】

Chattonella marina (ラフィド藻)



1. 2. 典型的な細胞

スケールバー 20 μm (0.02mm)

特記事項

最も注意を必要とする種。赤潮状態になるとハマチが全滅する。100cells/mLを越すとハマチの斃死が起こる恐れがある。10cells/mL以上になると餌止めが望まれる。

形態および泳ぎの特徴

体前部が広く、あまり扁平でなくラグビーボール状である。ゆるやかに回転して泳ぐ。体長 30~60 μm。黄褐色。環境の急変時には球形化する。

類似種との区分

シャットネラ アンティカ：マリーナは後端が尾状に伸びないこと、あまり扁平でないこと、より小型であることで区分する。

球形シャットネラ：マリーナは球形化しても、楕円形の色素胞が明瞭である。一方、球形シャットネラは小さな粒状のもので細胞が満たされている。

出現期、水温、水域

6月中旬~9月上旬、19~28°C (主に 21~28°C)、県下全域

赤潮、被害事例

赤潮：昭和 55 (燧灘)、57、58 年 (備讃瀬戸東部、播磨灘)

被害：昭和 57 年 (備讃瀬戸東部、直島)

県外の事例：鹿児島県錦江湾にて大被害